

情報スペシャリスト学科 2025 年度

科目名	ビジネス実務ⅢB				科目コード	11051501	
区分			開講時期		時間数	単位数	企業連携
必修	講義	2 年次	前期	34	2	無	
授業の概要・目的	日々変化・進歩しているビジネス社会で働く「人材」には、仕事を処理するために必要な専門知識はもとより、基本的な社会常識やビジネスマナー、さらには優れたコミュニケーション能力が必要となってくる。 そのために必要な社会常識、ビジネスマナー、コミュニケーション能力の習得を目的とした講義内容を1年次からレベルアップさせることを目的とする。						
到達目標	社会人として必要なマナー（期日厳守）・礼儀（挨拶状）を身に付け活用できる。						
評価項目	期末試験（65%）、出欠席(5%)、提出物（30%）						
評価基準	期末試験：各単元の理解度をはかる試験を実施し評価する。 ※出席率が80%未満の場合は、評価対象としない。						
担当教員	近藤 進介				常勤		
実務経験者による授業							
テキスト・参考文献	「ビジネスマナー基本テキスト」日本能率協会マネジメントセンター						
関連科目	ビジネス実務Ⅰ、Ⅱ						
授業計画	1. ビジネス文書の基本マナー 7コマ ①ビジネス文書：社内文書・社外文書 ②ビジネス文書：挨拶状の書き方（暑中見舞い・年賀状・年末挨拶状など） 2. 慶弔・贈答・会食のマナー 7コマ						

情報スペシャリスト学科 2025 年度

科目名	インターンシップ実習Ⅰ			科目コード	11024001	
区分		開講時期		時間数	単位数	企業連携
必修	実習	2 年次	前期	35	1	有
授業の概要・目的	めざす業界・職種の企業等で、実際の業務の流れや仕事のやりがい等を体感する。実習を通して、職業適性を自ら考え、主体的に職業選択ができるようになり、実習後、各自がしっかりとした職業意識をもって、主体的に学ぶことができることを目的とする。					
到達目標	企業等で、短期間で集中して、実際の仕事や職場の状況を体験し、職業適性を自ら考え、主体的に職業選択ができるようにする。 また、実習後、しっかりとした職業意識をもって、何を学ぶ必要があるのかを認識し、学習効果をより向上させる。					
評価項目	専門業務の遂行について、ビジネスマナーについて、実習態度について(95%) 出欠席(5%)					
評価基準	実習先からの評価 ※出席率が80%未満の場合は、評価対象としない。					
担当教員	近藤 進介			常勤		
実務経験者による授業						
テキスト・参考文献	なし					
関連科目	実習事前・事後指導					
授業計画	企業内実習					

情報スペシャリスト学科 2025 年度

科目名	情報処理技術者Ⅱ			科目コード	11017501	
区分		開講時期		時間数	単位数	企業連携
必修	講義	2 年次	前期	93	4	無
授業の概要・目的	情報処理技術者試験の取得を目指し、各分野の専門用語の確認、思考問題の強化、過去問題を中心に総仕上げを行う。					
到達目標	午前、午後分野の過去問答練を中心とした授業を行う。教師からの解説に加えて、学生同士の学び合い、アクティブラーニングを通じて全体の実力アップをはかる。					
評価項目	模擬試験結果（20%） 本試験結果（75%） 出席率（5%）					
評価基準	本試験の可否、及び得点率より評価する。加えて授業中に行う模擬試験結果も評価に加える。 ※出席率が 80%未満の場合は、評価対象としない。					
担当教員	近藤 進介			常勤		
実務経験者による授業	ミドルウェア、IaaS システムの開発 8 年					
テキスト・参考文献	授業中に適宜資料を配布する					
関連科目	コンピュータ概論 ネットワークセキュリティ アルゴリズム概論 情報リテラシー			情報処理技術者Ⅰ、Ⅲ～Ⅴ		
授業計画	1 対策説明 2 午前問題答練 3 午後問題答練 4 模擬試験 1 5 弱点補強 6 模擬試験 2 7 総まとめ 8 決起会					

情報スペシャリスト学科 2025 年度

科目名	サーバーサイド I			科目コード	11082301	
区分		開講時期		時間数	単位数	企業連携
必修	演習	2 年次	前期	45	3	無
授業の概要・目的	与えられた課題に対して、学生間でチームを組み、いままで培った Java のシステム開発の技術を総動員し、プロジェクト演習を実施する。					
到達目標	チーム開発における、多人数での開発におけるリーダーシップ、フォロワーシップの発揮、SE として求められるコンピテンシーを発揮し、各自が主体的に取り組む。					
評価項目	制作物 (50%) 期末試験 (45%) 出席率 (5%)					
評価基準	設計に関して、筆記試験を実施する。 また、授業課題として与えられた題材に対する取り組みについても評価する。 ※出席率が 80%未満の場合は、評価対象としない。					
担当教員	藤浦 理恵			非常勤		
実務経験者による授業	大手企業で、SE として長年システム設計業務に従事					
テキスト・参考文献	「Java システム開発 ベーシック」インフォテックサーブ					
関連科目	プログラミング I プログラミング II					
授業計画	1. ソフトウェア要件定義 2. ソフトウェア方式設計 3. ソフトウェア詳細設計 4. ソフトウェアコード作成及びテスト					

情報スペシャリスト学科 2025 年度

科目名	フロントエンドⅡ			科目コード	11083201	
区分		開講時期		時間数	単位数	企業連携
必修	演習	2 年次	前期	45	3	無
授業の概要・目的	WEB ページのオブジェクトを操作する方法について、演習を通じて Web サイト制作に必要な知識を教示する。 最終的に Web サイトを独力で作成する演習を行い、知識だけでなく技術的な成長を目指す。					
到達目標	JavaScript の基本的な文法を習得する。JavaScript を用いて動的なアプリケーションを作成する。					
評価項目	期末試験（75%）、制作物（20%）、出席率（5%）					
評価基準	JavaScript の基本文法に関して、筆記試験を実施する。また、授業課題として与えられた題材に対する取り組みについても評価する。 ※出席率が 80%未満の場合は、評価対象としない。					
担当教員	若林 潤一			非常勤		
実務経験者による授業	システムエンジニア 25 年					
テキスト・参考文献	「プロフェッショナル Web プログラミング JavaScript」エムディエヌコーポレーション					
関連科目	フロントエンドⅠ					
授業計画	1 JavaScript の基本 2 オブジェクト 3 関数 4 条件分岐 5 ループ処理 6 例外処理 7 正規表現 8 クラス 9 DOM 10 イベント 11 非同期処理 12 jQuery 13 フォーム制御 14 WebAPI					

情報スペシャリスト学科 2025 年度

科目名	PBL I			科目コード	11085301	
区分		開講時期		時間数	単位数	企業連携
必修	演習	2 年次	前期	60	4	無
授業の概要・目的	クロスプラットフォームのアプリケーションを開発する。 チームで題材を決めてプロジェクト開発を行う。					
到達目標	チーム内で相談して制作物を企画し、役割分担して開発を進める。多人数での開発におけるリーダーシップ、フォロワーシップの発揮、SE として求められるコンピテンシーを発揮し、各自が主体的に課題解決にむけて取り組めるようになること。					
評価項目	制作物(70%) プレゼンテーション(25%) 出席率(5%)					
評価基準	システム設計や開発技術で学んだことを実践できているか、チーム内での動き方、最終的な制作物で評価を行う。 ※出席率が 80%未満の場合は、評価対象としない。					
担当教員	近藤 進介			常勤		
実務経験者による授業	ミドルウェア、IaaS システムの開発 8 年					
テキスト・参考文献	授業中に適宜資料を配布する					
関連科目	システム開発 開発技術 プログラミングⅠ プログラミングⅡ フロントエンドⅠ フロントエンドⅡ					
授業計画	開発実習					

情報スペシャリスト学科 2025 年度

科目名	開発技術			科目コード	11083401	
区分		開講時期		時間数	単位数	企業連携
必修	演習	2 年次	前期	45	3	無
授業の概要・目的	システム開発におけるドキュメントの作成方法と、チーム開発における Git の使用方法を学習することで、システム開発に必要な関連技術を習得する。					
到達目標	システム開発に必要なドキュメントを作成することができる。 Git のコマンドを利用して、ソースコードの管理を行うことができる。 テスト計画書の作成とテストを実施できる。					
評価項目	期末試験（70%）、制作物（25%）、出席率（5%）					
評価基準	システム開発におけるドキュメントの基礎知識と Git の使用法に関して、筆記試験を実施する。また、授業課題として与えられた題材に対する取り組みについても評価する。 ※出席率が 80%未満の場合は、評価対象としない。					
担当教員	藤井 克俊			常勤		
実務経験者による授業	SE プログラマー 5 年					
テキスト・参考文献	「いちばんやさしい Git&GitHub の教本 第 2 版 人気講師が教えるバージョン管理&共有入門」株式会社インプレス					
関連科目	システム開発					
授業計画	1 Git の基本 2 Git を使う準備 3 バージョン管理 4 GitHub のリポジトリをパソコンに取得する 5 ブランチを用いたファイル更新 6 複数ブランチを同時に使ったファイル作業 7 コンフリクトに対処 8 GitHub を活用した開発					

情報スペシャリスト学科 2025 年度

科目名	クラウドコンピューティング			科目コード	11082701	
区分		開講時期		時間数	単位数	企業連携
必修	演習	2 年次	前期	30	2	無
授業の概要・目的	近年システム開発において主流になっている、クラウド環境の活用技術、特に AWS について、用語の理解と活用の手段を理解することを目的とする。					
到達目標	EC2、RDS などの主要な AWS の機能に関する専門用語と関連知識を習得しクラウド開発における仕組みを理解する。また、演習を通じてクラウド環境を用いたアプリケーション開発の技術を身に着ける。					
評価項目	期末試験 60% 演習 35% 出席率 5%					
評価基準	主要な AWS の機能に関する専門用語と関連知識を習得しクラウド開発における仕組みを理解できているか、期末試験により確認し、評価する。授業中の演習課題提出も評価に加える。 ※出席率が 80%未満の場合は、評価対象としない。					
担当教員	岡本 和也			常勤		
実務経験者による授業	ネットワークセキュリティ コンサルティングセールス 4 年					
テキスト・参考文献	「ゼロからわかる Amazon Web Services 超入門」技術評論社					
関連科目						
授業計画	1：Amazon Web Services とは何か 2：AWS とは 3：AWS に Web サイトを公開する 4：LEMP 環境で WordPress 実行 5：データベースを活用 6：固定 IP アドレスとドメイン名 7：安全な通信					

情報スペシャリスト学科 2025 年度

科目名	Python			科目コード	11084501	
区分		開講時期		時間数	単位数	企業連携
選択必修	演習	2 年次	前期	45	3	有
授業の概要・目的	Python の基本的な文法及び、JAVA との考え方の違いを学習し、AI プログラミングに向けた基礎を身につける。					
到達目標	Python を用いた基礎的な文法、考え方を身につけることを目的とする。 また、Python プログラミング能力認定試験 2 級の合格を目指す					
評価項目	期末試験 (75%) 授業中課題 (20%) 出欠席 (5%)					
評価基準	Python による基本的な処理と記述方法の理解度を確認する筆記試験を実施する。授業中の提出課題も評価に加える。 ※出席率が 80%未満の場合は、評価対象としない。					
担当教員	WillBooster 株式会社			非常勤		
実務経験者による授業						
テキスト・参考文献	「Python プログラミング完全入門～ノンプログラマーのための実務効率化テキスト」 技術評論社					
関連科目	プログラミング I プログラミング II					
授業計画	1 環境構築 2 Python の基礎文法 3 フロー制御 4 データの集合 5 部品化 6 実践演習 7 総まとめ					

情報スペシャリスト学科 2025 年度

科目名	AI 概論			科目コード	11082001	
区分		開講時期		時間数	単位数	企業連携
選択必修	演習	2 年次	前期	45	3	無
授業の概要・目的	AI に関わる様々な基本原理や基礎技術について学習する。AI に関する基礎的な知識や、必要なソフトウェアに関する知識の習得を目的とする。					
到達目標	AI に関する基礎的な知識、ツールの利用方法、AI 利用アイデアの検討方法について身につける。 また、AI 検定の合格を目指す					
評価項目	期末試験 (75%) 授業中課題 (20%) 出欠席 (5%)					
評価基準	AI に関する基本的な用語を理解しているか確認する筆記試験を実施する。また、授業内で実施する演習課題も評価に加える。 ※出席率が 80%未満の場合は、評価対象としない。					
担当教員	藤井 克俊			常勤		
実務経験者による授業	SE プログラマー 5 年					
テキスト・参考文献	授業中に適宜資料を配布する					
関連科目						
授業計画	イントロダクション 1 AI をめぐる動向 2 機械学習とは 3 モデルの性能評価 4 学習データとテストデータ 5 分類問題 6 線形回帰問題 7 クラスタリング問題 8 演習課題 9 ニューラルネットワーク 10 AI 利用アイデアの創出					

情報スペシャリスト学科 2025 年度

科目名	ネットワーク演習Ⅱ			科目コード	11084601	
区分		開講時期		時間数	単位数	企業連携
選択必修	演習	2 年次	前期	45	3	無
授業の概要・目的	ネットワーク機器、サーバ実機を用い、構築演習などハンズオン中心の講義を展開する。 クラウド、オンプレミス問わずサーバ設定、OS 基本設定、セキュリティ設定を行うことができる知識、スキルを身につけることを目的とする。					
到達目標	1 年次のネットワーク演習Ⅰで習得した知識をスキルとして確立させる。 また、実社会でのインフラ構築、運用の知識と技術を学び、ネットワーク技術者を目指す学生にとっての足掛かりとなる教育を行う。					
評価項目	期末試験 60% レポート 35% 出欠席 5%					
評価基準	NW 構築ができる知識がみについているかを問う期末試験、及び実機を用いて何らかの研究を行い、レポート提出を義務づけ評価に加える。 ※出席率が 80%未満の場合は、評価対象としない。					
担当教員	岡本 和也			常勤		
実務経験者による授業	ネットワークセキュリティ コンサルティングセールス 4 年					
テキスト・参考文献	授業中に適宜資料を配布する。					
関連科目	ネットワーク演習Ⅰ					
授業計画	イントロ：LAN ケーブルの仕組みと作成 1 デバイスの設置・接続 IP アドレスの設定及び疎通確認 2 ルーティング 1 3 DHCP/DNS/HTTP サーバ構築 4 VLAN 設定 5 ルーティング 2 6 ルーティング 3 7 総合演習Ⅰ 8 総合演習Ⅱ					

情報スペシャリスト学科 2025 年度

科目名	セキュリティ演習			科目コード	11083801	
区分		開講時期		時間数	単位数	企業連携
選択必修	演習	2 年次	前期	45	3	有
授業の概要・目的	セキュリティ技術について基盤となる知識を学習し、脆弱性診断やペネトレーションテストの手法について理解する。					
到達目標	セキュリティ技術や堅牢化について理解できる。 検証環境を用いてセキュリティ診断ができる。					
評価項目	期末試験 (95%) 出欠席 (5%)					
評価基準	セキュリティに関する基本的な用語やセキュリティエンジニアの業務に関する用語を理解しているか確認する筆記試験を実施する。 ※出席率が 80%未満の場合は、評価対象としない。					
担当教員	株式会社ブロードバンドセキュリティ			非常勤		
実務経験者による授業						
テキスト・参考文献	「体系的に学ぶ安全なWebアプリケーションの作り方」SB クリエイティブ					
関連科目	ネットワークセキュリティ					
授業計画	1 インターネット、クラウドサービスとは 2 ネットワークセキュリティ 3 サーバの堅牢化 4 暗号学 5 セキュアコーディング 6 ログ取得の重要性とその手法及び分析 7 堅牢化の実習 8 脆弱性管理とペネトレーション 9 サイバー攻撃の実態 10 フォレンジック 11 診断の実習					

情報スペシャリスト学科 2025 年度

科目名	インターンシップ実習Ⅱ			科目コード	11025001	
区分		開講時期		時間数	単位数	企業連携
必修	実習	2 年次	後期	70	2	有
授業の概要・目的	めざす業界・職種の企業等で、実際の業務の流れや仕事のやりがい等を体感する。実習を通して、職業適性を自ら考え、主体的に職業選択ができるようになり、実習後、各自がしっかりとした職業意識をもって、主体的に学ぶことができることを目的とする。					
到達目標	企業等で、短期間で集中して、実際の仕事や職場の状況を体験し、職業適性を自ら考え、主体的に職業選択ができるようにする。 また、実習後、しっかりとした職業意識をもって、何を学ぶ必要があるのかを認識し、学習効果をより向上させる。					
評価項目	専門業務の遂行について、ビジネスマナーについて、実習態度について (95%) 出欠席 (5%)					
評価基準	実習先からの評価 ※出席率が 80%未満の場合は、評価対象としない。					
担当教員	近藤 進介			常勤		
実務経験者による授業						
テキスト・参考文献	なし					
関連科目	インターンシップ実習Ⅰ、実習事前・事後指導					
授業計画	企業内実習					

情報スペシャリスト学科 2025 年度

科目名	情報処理技術者Ⅲ			科目コード	11018101	
区分		開講時期		時間数	単位数	企業連携
必修	講義	2 年次	後期	88	4	無
授業の概要・目的	情報処理技術者試験の取得を目指し、各分野の専門用語の確認、思考問題の強化、過去問題を中心に総仕上げを行う。					
到達目標	午前、午後分野の過去問答練を中心とした授業を行う。教師からの解説に加えて、学生同士の学び合い、アクティブラーニングを通じて全体の実力アップをはかる					
評価項目	模擬試験結果（20%） 本試験結果（75%） 出席率（5%）					
評価基準	本試験の可否、及び得点率より評価する。加えて授業中に行う模擬試験結果も評価に加える。 ※出席率が 80%未満の場合は、評価対象としない。					
担当教員	近藤 進介			常勤		
実務経験者による授業	ミドルウェア、IaaS システムの開発 8 年					
テキスト・参考文献	授業中に適宜資料を配布する					
関連科目	コンピュータ概論 情報処理技術者Ⅰ、Ⅱ、Ⅳ、Ⅴ ネットワークセキュリティ アルゴリズム概論 情報リテラシー					
授業計画	1 対策説明 2 午前問題答練 3 午後問題答練 4 模擬試験 1 5 弱点補強 6 模擬試験 2 7 総まとめ 8 決起会					

情報スペシャリスト学科 2025 年度

科目名	ビジネス実務IVB			科目コード	11052903	
区分		開講時期		時間数	単位数	企業連携
必修	講義	2 年次	後期	45	3	無
授業の概要・目的	日々変化・進歩しているビジネス社会で働く「人材」には、仕事を処理するために必要な専門知識はもとより、基本的な社会常識やビジネスマナー、さらには優れたコミュニケーション能力が必要となってくる。 そのために必要な社会常識、ビジネスマナー、コミュニケーション能力の習得を目的とし講義内容とする。 就職に必要なマナー、面接対策、コミュニケーション力などの実践力を養い、自分の将来をしっかりと見つめて働くことや職業への理解を深めていく。					
到達目標	・自分の強みを知り、効果的に自分を伝える方法を学ぶ。 ・社会人としてマナーの必要性を理解させるため、業界での必要とされる人材を意識させ、ロールプレイングを取り入れ、実践させていく。 ・明確な目標設定ができ、それに向かって努力ができる。 ・マナー、礼儀を身につけ、社会人としての判断ができる。 ・自己分析、応募書類の書き方、面接のコツなど、就活テクニック向上につながる知識を得る。 ・第1回就職対策の準備をする。					
評価項目	期末試験 65%、出欠席 5%、提出物 30%					
評価基準	※出席率が 80%未満の場合は、評価対象としない。					
担当教員	近藤 進介			常勤		
実務経験者による授業						
テキスト・参考文献	「ビジネスマナー基本テキスト」日本能率協会マネジメントセンター、 「就活支援ブック 就職活動編」株式会社キャリアタス					
関連科目	ビジネス実務Ⅰ～ⅢB、VB、VIB					
授業計画	1. キャリア 8コマ ①自己PR ②履歴書、自己紹介書 ③面接対策 2. 就職対策 26コマ 3. 社会人常識マナー検定、SPI					

情報スペシャリスト学科 2025 年度

科目名	サーバーサイド II			科目コード	11083001	
区分		開講時期		時間数	単位数	企業連携
必修	演習	2 年次	後期	45	3	無
授業の概要・目的	サーブレット及び JSP を用いて WEB システムを構築できるようになる。					
到達目標	サーブレット及び JSP についての概要を理解し、MVC モデルを利用した WEB アプリケーションの開発手法を身につけることを目的とする。 また、提示された題材に対して、自身で WEB アプリケーションを設計・構築できる技術を身に着ける。					
評価項目	期末試験 (75%) 授業中課題 (20%) 出欠席 (5%)					
評価基準	サーブレット及び JSP の基本的な処理と記述方法の理解度を確認する筆記試験を実施する。授業中の提出課題も評価に加える。 ※出席率が 80%未満の場合は、評価対象としない。					
担当教員	藤井 克俊			常勤		
実務経験者による授業	SE プログラマー 5 年					
テキスト・参考文献	「スッキリわかるサーブレット&JSP 入門」株式会社インプレス					
関連科目	プログラミング I プログラミング II サーバーサイド I					
授業計画	1 WEB のしくみ 2 サーブレットの基礎 3 JSP の基本 4 フォーム 5 MVC モデルと処理の遷移 6 リクエストスコープ 7 セッションスコープ 8 アプリケーションスコープ 9 アプリケーション作成					

情報スペシャリスト学科 2025 年度

科目名	プレゼンテーション技法			科目コード	11021701	
区分		開講時期		時間数	単位数	企業連携
必修	演習	2 年次	後期	30	2	無
授業の概要・目的	就職活動や就職後に様々な場面でプレゼンテーションを行う場面がある。プレゼン資料の作成だけでなく、聞き手にとってわかりやすいプレゼンを組み立てる力を、ロールプレイングを通じて身につけることを期待する。					
到達目標	プレゼンテーションと自分自身の関わり、重要性を学生が理解し、就職活動にも役立てられるように、アクティブラーニングを活用し、学生に考える場を多く設ける。					
評価項目	プレゼンテーション 50% 期末試験 45% 出欠席：5%					
評価基準	プレゼンテーションの重要性を理解し、相手に伝えられる力を身につけたか、結論→各論→総論でまとめられるか、実際のプレゼン。 期末試験は論述式で行う。 ※出席率が 80%未満の場合は、評価対象としない。					
担当教員	岡本 和也			常勤		
実務経験者による授業	ネットワークセキュリティ コンサルティングセールス 4 年					
テキスト・参考文献	「いちばんやさしい資料作成&プレゼンの教本」株式会社インプレス					
関連科目						
授業計画	1. プレゼンテーションとは何か 2. 聴き手を意識したプレゼン設計 3. ストーリー構成と論理的展開 4. スライドデザインの基本 5. 話し方とボディランゲージのテクニック 6. プレゼンで使う IT ツールの活用 7. 印象に残る導入と締めくくりの工夫 8. 実践ワーク①：短時間プレゼンをやってみよう 9. 実践ワーク②：グループ発表に挑戦 10. フィードバックと改善					

情報スペシャリスト学科 2025 年度

科目名	開発技術Ⅱ			科目コード	11084701	
区分		開講時期		時間数	単位数	企業連携
必修	演習	2 年次	後期	30	2	無
授業の概要・目的	現在開発環境の主流となっているコンテナ型仮想化について理解し、Docker の基本的なコマンド、環境構築方法を理解する。					
到達目標	1 年次のインフラ 1 で学んだ Linux の知識、スキルを発展させ、開発現場で Docker による開発環境構築ができるレベルに到達する。					
評価項目	期末試験 (75%) 授業中課題 (20%) 出欠席 (5%)					
評価基準	仮想化が理解できているか、またコンテナ型仮想化のメリット、Docker を使った開発環境が構築できるスキルが備わっているかを問う。 ※出席率が 80%未満の場合は、評価対象としない。					
担当教員	岡本 和也			常勤		
実務経験者による授業	ネットワークセキュリティ コンサルティングセールス 4 年					
テキスト・参考文献	「Docker&仮想サーバー完全入門 Web クリエイター&エンジニアの作業がはかどる開発環境構築ガイド」株式会社インプレス					
関連科目	開発技術Ⅰ					
授業計画	1. Docker とは何か？ 2. Docker のインストールと基本操作 3. イメージとコンテナの仕組み 4. コンテナのライフサイクル管理 5. Dockerfile による独自イメージの作成 6. ボリュームと永続化 7. ネットワークとコンテナ通信 8. Docker Compose の基本 9. 実践：Web アプリをコンテナで動かす					

情報スペシャリスト学科 2025 年度

科目名	専攻連携開発			科目コード	11084801	
区分		開講時期		時間数	単位数	企業連携
必修	演習	2 年次	後期	75	4	無
授業の概要・目的	アプリケーション開発において、自身の専攻する領域の技術を活用してプロジェクトに取り組む。 チームで題材を決めてプロジェクト開発を行う。					
到達目標	チーム内で相談して制作物を企画し、役割分担して開発を進める。多人数での開発におけるリーダーシップ、フォロワーシップの発揮、SE として求められるコンピテンシーを発揮し、各自が主体的に課題解決にむけて取り組めるようになること。					
評価項目	制作物 (70%) プレゼンテーション (25%) 出席率 (5%)					
評価基準	システム設計や開発技術で学んだことを実践できているか、チーム内での動き方、最終的な制作物で評価を行う。 ※出席率が 80%未満の場合は、評価対象としない。					
担当教員	近藤 進介			常勤		
実務経験者による授業	ミドルウェア、IaaS システムの開発 8 年					
テキスト・参考文献	授業中に適宜資料を配布する					
関連科目	システム開発 開発技術 プログラミングⅠ プログラミングⅡ フロントエンドⅠ フロントエンドⅡ					
授業計画	開発実習					

情報スペシャリスト学科 2025 年度

科目名	センサ回路演習			科目コード	11084901	
区分		開講時期		時間数	単位数	企業連携
選択必修	演習	2 年次	後期	45	3	無
授業の概要・目的	AI の学習に必要なデータを取得するためのセンサの使い方やデータの取得方法について理解する。					
到達目標	センサから取得したデータをコンピュータにアップロードし、AI を使用して分析を行うことができる。					
評価項目	期末試験 (75%) 授業中課題 (20%) 出欠席 (5%)					
評価基準	センサについての基礎知識、センサの利用方法についてのスキルが備わっているかを問う。 ※出席率が 80%未満の場合は、評価対象としない。					
担当教員	近藤 進介			常勤		
実務経験者による授業	ミドルウェア、IaaS システムの開発 8 年					
テキスト・参考文献	授業中に適宜資料を配布する					
関連科目						
授業計画	1) 電子工作について 2) 各種センサについて 3) ロボット制御について 4) 模擬演習					

情報スペシャリスト学科 2025 年度

科目名	統計・データ分析				科目コード	11085001	
区分		開講時期		時間数	単位数	企業連携	
選択必修	演習	2 年次	後期	45	3	無	
授業の概要・目的	AI を扱う上で必要となる統計について、その意義や各種分析手法について理解する。						
到達目標	与えられたデータについて正しく理解し、統計・データ分析を行うことで実社会での情報活用や問題解決の手法の必要性を理解する。						
評価項目	期末試験 (75%) 授業中課題 (20%) 出欠席 (5%)						
評価基準	統計の基本的な用語に付いての理解、各種図表を正しく読み取る能力を確認する筆記試験を実施する。授業中の提出課題も評価に加える。 ※出席率が 80%未満の場合は、評価対象としない。						
担当教員	木戸 善之			非常勤			
実務経験者による授業	アプリケーション、ミドルウェア開発 9 年						
テキスト・参考文献	「統計学の基礎から学ぶ Excel データ分析の全知識」株式会社インプレス						
関連科目							
授業計画	1) データ分析の全体像について 2) 基本統計について 3) データの可視化について 4) 仮説検証 5) データの前処理 6) 模擬演習						

情報スペシャリスト学科 2025 年度

科目名	インフラセキュリティⅠ			科目コード	11085101	
区分		開講時期		時間数	単位数	企業連携
選択必修	演習	2 年次	後期	45	3	無
授業の概要・目的	情報通信におけるネットワークの脅威と対策手法を体系的に学ぶ。ファイアウォールや VPN、暗号化通信などの基本技術を理解し、実践的なセキュリティ知識を習得することを目的とする。					
到達目標	代表的なネットワーク脅威とその仕組みを理解し、基本的なセキュリティ対策を設定・運用できる力を養う。演習を通じて機器の操作法やインシデント対応を学び、情報倫理と法的枠組みに基づいた判断力を身につける。					
評価項目	期末試験 (60%) レポート (35%) 出欠席 (5%)					
評価基準	レポートや課題、小テスト、演習の取り組み、期末試験を総合的に評価する。基礎的な知識と技能を身につけ、実践的に活用できるかを重視し、特に積極的な参加態度や理解の深さを高く評価する。 ※出席率が 80%未満の場合は、評価対象としない。					
担当教員	岡本 和也			常勤		
実務経験者による授業	ネットワークセキュリティ コンサルティングセールス 4 年					
テキスト・参考文献	「インフラ/ネットワークエンジニアのためのネットワーク技術&設計入門」SB クリエイティブ					
関連科目	セキュリティ演習 インフラセキュリティⅡ					
授業計画	1) ネットワークセキュリティの基本と脅威の全体像 2) サイバー攻撃の種類と攻撃手法の理解 3) ファイアウォールの仕組みと設定実習 4) IDS/IPS による侵入検知と防御の基本 5) VPN の仕組みと安全な通信の実現方法 6) 暗号化通信（SSL/TLS）の基礎と運用 7) 認証技術とアクセス制御の実践 8) インシデント対応とログ分析の基本 9) 模擬演習					

情報スペシャリスト学科 2025 年度

科目名	クラウドインフラ演習			科目コード	11085201	
区分		開講時期		時間数	単位数	企業連携
選択必修	演習	2 年次	後期	45	3	無
授業の概要・目的	AWS 上にインフラ環境を構築し、システムが安定的に稼働できる環境づくりの手法について演習を行う。					
到達目標	与えられた課題に対して、適切な技術や設定を選定し、構築ができる技術を身につける。					
評価項目	期末試験(75%) 授業中課題(20%) 出欠席(5%)					
評価基準	クラウド上にインフラを構築する技術の特徴についての理解度を確認する筆記試験を実施する。授業中の提出課題も評価に加える。 ※出席率が 80%未満の場合は、評価対象としない。					
担当教員	木戸 善之			非常勤		
実務経験者による授業	アプリケーション、ミドルウェア開発 9 年					
テキスト・参考文献	授業中に適宜資料を配布する					
関連科目	クラウドコンピューティング					
授業計画	1 AWS について 2 AWS でインフラ構築に利用されるサービス 3 WEB アプリケーションインフラ構築 4 多拠点ネットワーク・インフラ構築 5 セキュア環境インフラ構築 6 問題演習					